

Asia Indicators

発表日: 2021年4月9日(金)

フィリピン、インフレ率は中銀目標を上回る推移 (Asia Weekly(4/5~4/9))

～タイのインフレ率は依然マイナスで推移するなどディスインフレが続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/5(月)	(タイ)3月消費者物価(前年比)	▲0.08%	+0.10%	▲1.17%
	(シンガポール)2月小売売上高(前年比)	+5.2%	--	▲6.1%
4/6(火)	(フィリピン)3月消費者物価(前年比)	+4.5%	+4.8%	+4.7%
	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	0.10%	0.10%	0.10%
4/7(水)	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	4.00%	4.00%	4.00%
	(現金準備率)	3.00%	3.00%	3.00%
4/8(木)	(フィリピン)2月輸出(前年比)	▲2.3%	--	▲4.8%
	2月輸入(前年比)	+2.7%	--	▲12.1%
	(台湾)3月消費者物価(前年比)	+1.26%	+1.40%	+1.40%
4/9(金)	(中国)3月消費者物価(前年比)	+0.4%	+0.3%	▲0.2%
	3月生産者物価(前年比)	+4.4%	+3.5%	+1.7%
	(マレーシア)2月鉱工業生産(前年比)	+1.5%	+2.0%	+1.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

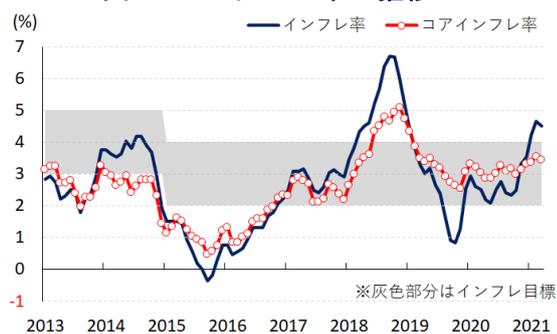
[フィリピン]～生活必需品の物価上昇一服でインフレ率は鈍化も、3ヶ月連続でインフレ目標を上回る推移～

6日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+4.5%となり、前月(同+4.7%)から鈍化したものの3ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標(2~4%)を上回る伸びとなっている。前月比は▲0.23%と前月(同+0.23%)から7ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の底入れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格が下落したほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落するなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退したことが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.45%と前月(同+3.54%)から伸びが鈍化しており、前月比も+0.00%と前月(同+0.32%)から上昇ペースも鈍化している。輸送コストの上昇を反映して幅広く消費財に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染再拡大を受けて行動制限が再強化される事態に追い込まれており、経済活動の抑制がサービス物価の下押し圧力となるなどディスインフレ圧力が強まる動きもみられる。

8日に発表された2月の輸出額は前年同月比▲2.3%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月(同▲4.8%)からマイナス幅は縮小した。なお、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。

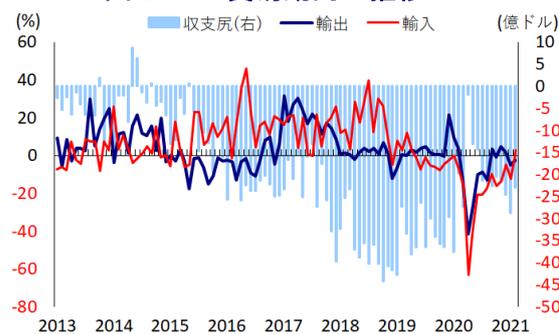
国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けをはじめ、ASEAN（東南アジア諸国連合）向けなどアジア新興国向けを中心に底入れの動きに一服感が出る一方、日本や米国など先進国向けの堅調さが全体を押し上げる展開が続いている。一方の輸入額は前年同月比+2.7%となり、前月（同▲12.1%）から22ヶ月ぶりに前年を上回る伸びとなった。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが進む。原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きが輸入額を押し上げており、輸出の堅調さや経済活動の再開による内需底打ちの動きも輸入を下支えする。結果、貿易収支は▲22.93億ドルと前月（▲28.77億ドル）から赤字幅が縮小している。

図1 PH インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 PH 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[タイ]～原油価格の底入れに伴うエネルギー価格の上昇も、インフレ率は引き続きマイナスでの推移が続く～

5日に発表された3月の消費者物価は前年同月比▲0.08%と13ヶ月連続のマイナスとなったものの、前月（同▲1.17%）からマイナス幅は縮小した。前月比は+0.23%と前月（同▲0.91%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、生鮮品を中心とする食料品価格は引き続き下落傾向で推移している一方、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は上昇基調で推移するなど、生活必需品を巡る物価動向はまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.09%となり、前月（同+0.04%）からわずかに伸びが加速しているものの、中銀の定めるインフレ目標（3±1%）の下限を下回る推移が続いている。エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストに押し上げ圧力が掛かっているにも拘らず、幅広く消費財価格は落ち着いた推移が続いているほか、新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限を受けてサービス物価も弱含む展開となるなど、全般的にデフインフレ基調が続いている。

図3 TH インフレ率の推移

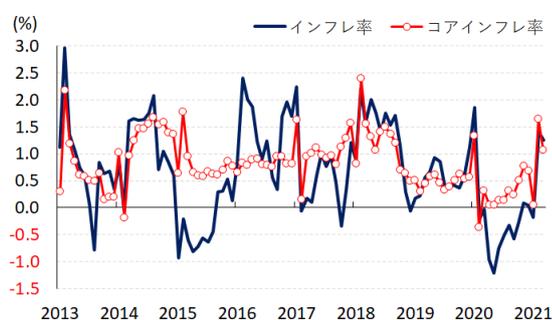


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[台湾]～生活必需品を巡る物価の動きはまちまちながら、一般的にデスインフレ基調が強まる展開が続く～

8日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+1.26%となり、前月（同+1.40%）から伸びが鈍化した。前月比も▲0.59%と前月（同+0.49%）から4ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は上昇傾向が続く一方、生鮮品を中心とする食料品価格は下落するなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.07%となり、前月（同+1.65%）から伸びが鈍化している。前月比も▲0.60%と前月（同+0.77%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストに押し上げ圧力が掛かっているものの、財価格は総じて落ち着いた推移が続いているほか、サービス物価にも下押し圧力が掛かっており、春節（旧正月）連休に併せて物価に押し上げ圧力が掛かった動きに一服感が出ていることも影響している。

図4 TW インフレ率の推移

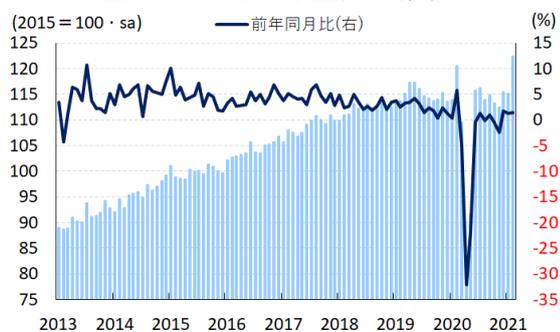


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～商品市況の底入れに加え、輸出の堅調さは鉱業や製造業など幅広い分野で生産を押し上げる～

9日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+1.5%となり、前月（同+1.2%）から伸びが加速した。前月比も+6.30%と前月（同▲0.32%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きが再び強まっている様子がうかがえる。商品市況の底入れを受けて堅調な動きが続く原油や天然ガス関連をはじめとする鉱業部門の生産が大きく拡大しているほか、製造業部門の生産も拡大に転じており、主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連のほか、石油化学関連をはじめとする重化学工業部門でも生産拡大の動きが広がるなど、世界経済の回復を背景とする輸出の堅調さが生産を下支えしている。

図5 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～雇用・所得環境を巡る不透明感が重石となり、小売上の底入れの動きに一服感が出る～

5日に発表された2月の小売上高は前年同月比+5.2%となり、前月（同▲6.1%）から24ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。ただし、前月比は▲1.61%と前月（同+1.73%）から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど底入れが進んできた流れは一服している。なお、同国では月ごとに自動車販売の動向が上下双方に振れる上、小売上全体の動きを左右する傾向があるなか、当月は前月比▲3.72%と前月（同+2.15%）から2ヶ月ぶりの減少に転じて全体を下押ししている。ただし、自動車を除いたベースでも前月比▲1.23%と前月（同▲2.40%）から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調は拡大傾向で推移するもそのペースは鈍化するなど頭打ちの兆候が出ている。エネルギー需要に堅調な動きがみられるほか、頭打ちが続いた宝飾品需要に底打ち感が出る動きはみられるものの、食料品など生活必需品のほか日用品関連に対する需要が弱含んでいるほか、レクリエーション関連の需要も弱含む展開が続いており、雇用環境を巡る不透明感などが家計消費の足かせになっているとみられる。



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。